

ルコトハ異存ナシ尤モ右ノ場合ニモ帝國政府ハ右借款ニ付保証ヲ与フルコトヲ得ス尚國際借款問題トハ關係ナク日独間限りノ民間借款ハ帝國政府ニ於テ何等異存ナク現ニ在仏大使宛往電第五九七号ノ通日本銀行ト「ライヒスバンク」トノ間ニ一千万円当座貸越ノ交渉進行中ナリ此点貴官限りノ御含迄

附 歐洲復興國際会社設立問題一件

一三二 一月十二日 在カンヌ林最高會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興國際会社設立問題ニ関シ稟申ノ件

第二十九号

(一月十三日接受)

往電第一九号末段不取敢一万磅醸出ノ件ハ我カ持分僅カ二万円ニ止マル儀ニモ有之カ支出方往電第一七号「ゼノア」會議參列稟申ト共ニ至急御決定ヲ請フ尚ホ往電第二一号(内)末段二百万磅ノ件ハ附屬甲号表「アンネックス」未定ノ為メ分配額不明ナルモ日本(脱)復興ニ対スル關係極メテ薄キ事情ニ顧ミ其ノ割合ハ左迄多額ニ上ルコト万々無之見込ナリ又往電第二一号(内)子会社ヲ各国内ニ設クル件ヲ其ノ儘日本ニ適用セントスルハ總テノ点ニ於テ我カ事情ニ通

ズマジト認メタルニ付一月十一日開場ガ本件会社設立問題担当委員長タル英國陸軍大臣「エヴァンス」ニ會談ノ機會アリシヲ幸ヒ日本ハ子会社ノ經營スヘキ業務モ格別ナク且到底急速スル会社設立ノ事務整フヘシトモ思ハレス歐洲諸國トハ自ラ全ク事情ヲ異ニスル次第ヲ述ヘシメタルニ同大臣ハ是ヲ諒トシ居タル趣ナリ就テハ右子会社設立ノ点ハ必ズシモ(脱)更ニ言明シ置ク事ニ取計フヘシ
在欧米各大使及聯盟總會代表ヘ転電セリ

一三三 一月十九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興國際会社設立準備委員會日本側代表指令
方英國政府ヨリ督促ノ件

第二十六号 (一月二十日接受)

本使宛在仏大使宛第一二〇号

「カンヌ」會議決定歐洲復興國際会社設立準備委員會日本側代表者ニ関シ十八日英外務省ヨリ指名方督促シ来リタルニ付十三日「カンヌ」ニ於テ通告シ置キタル通開場ヲ出席セシムル旨並同官貴地駐在ニ付開會期日出來得ル限り速ニ當館ヘ通知方申送り置ケリ

一三四 一月二十日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興國際会社設立準備委員會日本側代表ヲ大

久保正金支店長トシタル件

第二十八号

(一月二十一日接受)

本使宛在仏大使宛電報第一二〇号ニ関シ
外務省ヨリ追ツカケ公文ヲ以テ英國ニ於テハ本件準備委員會ニハ政府ト關係ナキ實業家ヲ出席セシムベキニ付日本委員モ官吏ニ非ザルコトヲ希望スル旨申越シタル処他國側ノ振合ハ未ダ明カナラザルモ当事者ニ於テハ本件會議開催ヲ急ギ居ル模様ニ付開場ノ代リニ大久保正金銀行支店長ヲ出席セシムルコトニ變更シタルニ付右御承認ノ上右ノ事情正金本店ヘ御通知置ヲ乞フ

一三五 一月二十日 神野大藏次官ヨリ
田中外務次官代理宛

歐洲財政經濟復興策ニ関シ大藏省ノ意見回答

ノ件

官房秘丙第六号

大正十一年一月二十日

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一三四 一三五

外務次官代理 田中 都吉殿
大藏次官 神野勝之助(印)

歐洲財政經濟復興策ニ関スル件

本年一月六日欧二普通合第一二二号ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ニ関シテハ最高會議既ニ終了後ニ有之候ヘドモ右ハ主トシテ来ルヘキ國際經濟會議ノ問題トナルヘキ義ト被存候
条當省ノ意見左ノ通及回答候也

第一、歐洲經濟復興機關ニ本邦参加ノ可否

歐洲經濟復興ノタメニスル國際商事会社ニ本邦ノ参加スルハ主義ニ於テ異議ナキモ本邦ハ他ノ参加諸國ト事情ヲ異ニシ特殊ナル地位ニ在ルニ顧ミ本邦實業家カ幾何ノ出資ヲ為シ得ルヤ否ヤハ今日ノ処全ク不明ニ属シ該商事会社ノ目的及組織等ヲ今一層詳ニシ實業家ノ意見ヲ徴シタル上ニ非ザレバ明言難致但シ設立費用一万磅ノ五國均等負担ハ已ムヲ得ザルモノト被存候

第二、對露通商開始ニ本邦参加ノ可否

對露通商開始ニ関シ聯合各國ト協調スルハ不可ナシト雖モ若シ勞農政府ニ對シ右開始ノ前提条件トシテ旧露國政府ノ債務ヲ承認セシムル場合ニハ本年一月十一日秘丙第二号ヲ

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一三六

以テ貴省臨時平和条約事務局局長代理宛回答ニ係ル「カンヌ」最高會議ニ関スル件第二ノ(三)ニ掲クル對露債權ハ是非共之ヲ承認セシムル様在欧洲代表者ニ御訓令相成度候尚勞農政府ニ於テ通商開始ノ前提トシテ我占領軍隊ノ撤退ヲ主張スル場合ニ於テハ尼港事件ノ損害賠償ヲ請求スルコトハ閑却スベカラザル問題ト被存候条為念申添候

一三六 一月二十三日
内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

歐洲復興國際会社参加ニ對スル我方ノ意向

通報ノ件

第二七号

「カンヌ」發貴電第二九号ニ関シ國際商事会社参加ハ主義トシテ異議ナキモ何分他ノ参加国ト事情ヲ異ニスル關係上本邦側ノ出資ハ会社ノ目的及ヒ組織等ヲ一層詳ニシ実業家ノ意見ヲ徴シタル上ニアラザレバ明言シ難キニ付其御含ニテ適宜御措置アリタシ

設立費一萬磅五国均等負担ノ件ハ主義上差支ナキモ予算ノ關係アルニ付支払ヲ要スル時期予メ承知シタシ

尚「カンヌ」發貴電第一七号會議参加方ノ件ハ在伊大使宛

一三七 一三八

往電第四号ニ依リ御承知アリタシ

在欧米各大使ヘ転電アリタシ

一三七 一月二十四日
内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

歐洲復興会社子会社設立ノ点ニ付指示ノ件

第三三号

「カンヌ」發貴電第二九号末段子会社設立ノ点ニツキ閣下ヨリ御言明ノ次第及ヒ先方ノ応答振御電報アリタシ尚本邦側ガ自然子会社ヲ設立セザルコトナルヘキニ付テハ「カンヌ」發貴電第二一号会社設立目論見書第四項ノ代表權及ヒ第六項親会社資本割当額等子会社ノ設立ヲ前提トスル事項ニ関シ差当リ会社組織委員會ニ於テ日本ニ関シ特別ノ取極ヲナシ置ク必要アルヘキニ付右可然御措置アリタシ在欧各大使ヘ転電アリタシ

一三八 二月三日
在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興会社設立準備委員會ノ開會及設立費

支出ノ時期ニ付回報ノ件

第五五号

(二月四日接受)

貴電第三四号兩委員會開催日割係官ニ問合セ居リタル処日程委員會ニ関シテハ二英國委員(「モリス」「ハンケー」)數日內ニ華盛頓ヨリ帰国ノ上何分ノ儀申越スヘク復興会社設立準備委員會ハ來週初迄ニハ完成覚束ナキ模様ナルモ出來得レハ來週中ニハ開會スヘキ旨回答アリ又貴電第二七号中段設立費支出時期モ未定ト見エ追テ通知スヘシトノ事ナルカ執レ会社設立準備委員會開會ト同時又ハ其ノ後間モナキコトナラン

仏ヘ電報

一三九 二月十四日
在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲經濟復興会社設立準備英國委員ヨリ同委員會開會期日等ニ関シ通告越ノ件

別電 二月十四日在英國林大使宛内田外務大臣宛電報
第七九号
歐洲復興会社設立ニ関スル英國側起案ノ議題

第七八号(至急) (二月十五日接受)

往電第五五号ニ関シ復興会社設立準備英國委員ヨリ大久保ニ宛テ別電第七九号英國側起案ノ議題ヲ添ヘ二月二十一日

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一三九

一八八

1. Appointment of Chairman and Secretary of the Organizing Committee.
2. Relations of International Corporation and National Corporations. (The British representatives will have ready for submission to the Committee, draft memorandum and Articles of Association of the International Corporation and of the British National Corporation).

一八九

3. Capital of the National Corporations and their participation in the International Corporation.
4. Participation to be reserved for countries not originally represented on Organizing Committee.
5. Invitations to other countries.
6. Powers of Directors of the International Corporation.
7. Other matters connected with constitution, formation and procedure of the International Corporation and National Corporations.
8. Personnel of the International Corporation.
9. Date of formation of the National Corporations and the International Corporation.
10. Preparation of record of decisions of the Organizing Committee.

(右和訳文)

(復興会社設立準備委員会) 議題

- 一、準備委員会委員長並理事ノ選任
- 二、国際会社ト内国会社トノ関係

(英国代表者ハ国際会社並英国会社ノ定款草案 Draft memorandum and Articles of association ヲ本委員会ニ提出スヘシ)

- 三、内国会社ノ資本及其国際会社ニ対スル持分
- 四、当初準備委員会ニ代表者ヲ出サザリシ国ノ為ニ保留スヘキ持分
- 五、其他ノ国ニ対スル招請
- 六、国際会社取締役ノ権限
- 七、国際会社並内国会社ノ構成設立及手続ニ関聯セル其他ノ事項
- 八、国際会社ノ職員
- 九、内国会社及国際会社設立ノ期日
- 十、準備委員会決議録ノ準備

一四〇 二月十五日 在英園林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲經濟復興会社ニ対スル我方ノ出資額ニ関

シ請訓ノ件

第八二号 至急 (二月十五日接受)

往電第七八号及ヒ第七九号ニ関シ該英国委員提議ノ日程ヲ

見ルニ相当細目ニ亘リ会社創立ノ實際事務ニ踏込ミ迅速ニ

討議決定セムトスル意向ト認メラレ其ノ場合貴電第二七号ニ依リ我方出資ノ有無サヘモ未定ナル旨言明シ為ニ我方ニ最モ利害関係少キ該委員会ノ討議ノ進捗ニ障碍ヲ与フルコトハ出来得ル限り避ケタク存セラルルニ付此ノ点ニ付テハ大久保ヲシテ貴電第二七号前段ノ通述ベシムル代リニ日本ハ相当出資ハ為スベキモ其ノ額ニ付テハ今少シ具体的ニ割当額ヲ審査シタル上ニ非ザレバ何トモ申シ難キ日本資本家側ノ意向ナリト述ベシムルコトトセル処右ニテ差支ナキヤ右ハ貴電第三三号御来訓ノ外尚ホ往電第七九号各項ニ対シ大久保ヲシテ出来得ル限り詳細且ツ具体的ニ本邦側ノ意向ヲ承知セシメ置キタキニ付右御含ミヲ以テ至急何分ノ義御回電ヲ請フ

在歐洲各大使在米大使紐育総領事ニ転電シ在歐洲各公使ヘ郵報セリ

一四一 二月十六日 田中外務次官代理ヨリ
神野大蔵次官宛

歐洲復興会社準備委員会ニ於テ日本委員ノ採ルベキ態度ニ関シ大蔵省意見回示方照会ノ件

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一四一

欧二機密第四六号

復興会社準備委員会ニ於テ帝国委員ノ採ルヘ

キ態度ニ関スル件

今般在英林大使ヨリ復興会社準備委員会英国委員提議ノ日程(本月六日附欧二機密第四三号)ニ拠レハ同委員会ハ会社創立ノ實際事務ヲ相当細目ニ亘リ且迅速ニ討議決定セムトスルノ意嚮ト認メラルルヲ以テ出資ノ点ニ付テハ大久保委員ヲシテ本邦資本家ハ相当出資スヘキモ具体的ニ割当額ヲ審査シタル上ニ非サレバ其ノ金額ニ付言明スルヲ得ザル旨陳述セシムルコトトセル処右ニテ支障可無之哉將又前記英国委員提議ノ日程各項ニ付大久保委員ヲシテ可成詳細且具体的ニ本邦側ノ意嚮ヲ承知セシメ置キ度キニ付何分ノ訓令ニ接シ度旨電請致越候ニ付右諸点ニ対スル貴省ノ御意見至急御回示相煩度此段及照会候也

一四二 二月十七日 在英園林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興会社設立費二千磅払込方英国委員ヨ

リ要請ノ件

第八五号 (二月十八日接受)

至急

往電第五五号末段ニ関シ英國委員ヨリ大久保宛帝國政府ヨリ式千磅払込方要求シ来レリ就テハ右至急當館宛電送アリタシ

一四三 二月十八日

神野大藏次官ヨリ
田中外交官代理宛

歐洲復興會社準備委員會ニ於テ日本委員ノ採

ルベキ態度ニ関シ回答ノ件

秘丙第二二号

(二月二十日接受)

大正十一年二月十八日

大藏次官 神野勝之助(印)

外務次官代理 田中都吉殿

復興會社準備委員會ニ於テ帝國委員ノ採ルヘ

キ態度ニ関スル件

本月十六日附歐二機密第四六号ヲ以テ御照會ノ趣了承歐洲經濟復興會社ノ設立準備ニ関シテハ日本モ之ニ参加セル以上出来得ル限り尽力致スベキモ日本ハ歐羅巴諸國ト事情ヲ異ニセルヲ以テ本邦実業家ニ對シテ出資ヲ勧誘スルコトハ極メテ困難ニシテ本邦公會社ノ株式ノ割當ヲ受クルコトハ

事實上出来兼ヌルコト被存候從ツテ之ガ細目ハ玆ニ申進シ兼候此段不取敢及回答候也

一四四 二月二十日

内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

歐洲經濟復興會社ニ對スル我方ノ出資不可能

ナル旨回訓ノ件

第七六号(至急)

貴電第八二号ニ関シ

大藏省側ニ於テハ我國ハ歐洲諸國ト事情ヲ異ニスルヲ以テ本邦実業家ニ出資ヲ勧誘スルコトハ極メテ困難ニシテ同會社ノ株式ノ割當ヲ日本側ニテ引受クルコトハ事實上不可能ナリトノ意見ナルニ付右御含ノ上大久保ヲシテ篤ト我立場ヲ説明シ遺憾ナガラ我実業家ノ出資ハ望ナキ旨ヲ言明セシメラレタク其ノ結果我方ニ於テ準備委員會ヨリ手ヲ引クコト然ルベシトノ御意見ナルニ於テハ右様措置セラレタシ尤モ出資ノ点以外ニ於テ何等カ尽力スベキコトアルニ於テハ別ニ考慮スル考ナル旨附言シ置カレタシ
在歐米各大使及紐育總領事ヘ転電シ在歐各公使ヘ郵報アリタシ

一四五 二月二十五日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興會社設立委員會開會及會議ノ模様報

告ノ件

第九九号

(二月二十六日接受)

貴電第七六号ニ関シ

會社設立委員會予定ノ通二月二十一日開會

貴電ノ次第會議ノ席上披露スルニ先立チ先ツ以テ本件主唱者タル英國委員側ノ了解ヲ得置クコト然ルヘシト思考シ大久保ヲシテ開會前英國首席委員ニ面會委細我カ立場ヲ説明シ貴電ノ趣旨ヲ述ベシメ置キタル処同委員ハ其ノ意ヲ諒トシタルモ之ガ為メ日本ガ本委員會ヨリ脱退スルガ如キハ面白カラザルノミナラズ本委員會ハ敢テ最終的決定ヲ為サントスル次第第二モアラザルニ付兎ニ角會議ニ引続キ出席シ隨時其ノ経過ヲ本邦側ニ報告セバ可ナルベシト答ヘタル趣ナリシガ拟テ該委員會ニ於テハ議長選任(英國首席 Lord Inverforth 當選)ニ次ギ議長ヨリ會社資本ハ予定金額ノ二割二百萬磅トスヘキ旨ヲ声明シ子會社組織ノ問題ニ入りタルニ忽チ議論百出シ仏國委員ハ會社ノ目的事業等明瞭ニ提

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一四五

議セラレザレバ内國會社組織ニ當リ法律上事實上ノ困難アルコトヲ述ベ白國同様ノ事ヲ述ヘ英國委員ハ事業ハ會社設立後其ノ理事ニ依リ定メラルヘキモノナリト為シ伊國委員

大体同様ノ意見ヲ述ベ尚伊國ハ現行法ニ抵触スル点ニ付テハ幾分該法律ヲ變更スルモ辞セズト述ベ次テ會社ニ附与セラルヘキ政府ノ保障ニ関シテモ英國委員ハ英國政府ガ与フヘキ保障(午後ノ會議ニテ其内容別電第一〇〇号ノ通報露セリ)ニ付テ述ベ仏白委員ハ右保障ノコトハ未ダ曾テ承知セザリシト述ベ英國委員ハ去ル管ナシト駁シ伊國委員ハ必要ナラバ此保障ヲ与フルニ躊躇セザルベキ旨ヲ述ベ仏白伊三委員ハ別電内容ヲモ本國ニ電報スルコトナリ午後ノ會議ニ於テ子會社ハ結局成立スルモノト見テ參加國ニ関シ議シ主要參加國ヲ英仏伊白獨ノ五國トシ(米參加セバ歡迎ス)平等ニ二割宛出資スルコト丁抹和蘭「チエック」瑞西ヲ招請シ其加入ニ連レ前記各出資額ハ等シク減ズルコト若シ右以外ノ國加入セハ尚各自ノ出資額ヲ減スベキカ資本金ヲ増スベキカ創立委員又ハ理事會ノ決定ニ委スヘキコトヲ決定セル趣ナリ其節議長ハ參加國中ニ日本ヲ加ヘザル原案ニ付此儘トスベキヤ之ヲ加フベキヤト囁キタルニ付大久保ハ其

儘トセラレタキ旨ヲ述ベタル趣ニテ之ニテ特ニ目立チタル
声明ヲ為サズシテ自然ニ日本ノ不参加認メラルル形トナリ
タル次第ナリ

大久保ハ其後引続キ本委員会ニ出席シ居レリ其後ノ經過後
電

尚前記大久保ヨリ英國委員ヘ予メ申入ノ趣旨ハ該委員議長
ニ當選後大久保ヨリ手紙ニテ右議長宛「コンファーム」シ
置キタリ（二十四日）

在歐米各大使及在紐育總領事ヘ転電シ在歐各公使ヘ郵報セ
リ

一四六 二月二十五日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

歐洲復興會社英國子會社ニ對スル英國政府保
証ノ大要報告ノ件

第一〇〇号 （二月二十五日接受）

英國子會社ニ對スル英國政府保証ノ大要

(一) 英國子會社資本ヲ金四百万磅トシ英國政府ニ依リ保証
セラル

(二) 右保証ハ英國子會社ノ收益中ヨリ設ケラルベキ特別積

一四八 三月一日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

歐洲復興會社設立委員會ノ主要決定事項報告
ノ件

第一一八号 （三月二日接受）

往電第一〇五号ニ関シ

該會議二十五日終了セル処決定事項中重ナルモノ大要左ノ
通

(一) 各國子會社資本合計二千万磅、英仏白独ニ割宛引受ケ
(即各子會社額ハ四百万磅相当額ニシテ内百万磅相当額即
日募集)

(二) 親會社資本二百万磅、各子會社ハ各自資本約一割宛釀出
是ニ充ツ

(三) 右五国以外日、米、丁抹、蘭、瑞西及「チェッコ」六ヶ
国ニ参加勧誘但シ参加スルモノアラハ其ノ資本ニ付(イ)右五
国引受額ニ割ハ右ニ比例扣除セラルルカ(ロ)親會社理事会決
定ニ委ス

(四) 子會社資本増加ハ親會社理事会ノ承認ヲ要ス

(五) 子會社資本募集ノ為必要アラバ政府ノ保証ヲ求ム

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一四八 一四九

立金ヲ以テ償却セラル可ク右積立金ハ保証資本発行額ニ
對スル六分ノ配當ニ相当スル額ヲ控除シタル残額ノ二割
ヲ毎年留保シテ之ニ充ツ

(三) 該積立金一百万磅ニ達シタルトキハ保償資本額ハ右ニ
応シ減少シ順次保証全部消滅スヘシ

一四七 二月二十五日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

歐洲復興會社設立委員會第二回會議ノ模様報
告ノ件

第一〇五号 （二月二十六日接受）

往電第九九号ニ関シ

二月二十二日第二回會議開催、劈頭前記往電末段ノ大久保
議長宛通牒朗読セラレ異議ナク通過（大久保ハ既述ノ通
リ引続キ出席）次テ英委員提出ノ英國子會社及親會社定款
並「アグリーメント」草案ニ関シ諸般ノ討議アリ該諸点ニ
付法律顧問ニ於テ改正草案起草ノ答
尚次回ニハ独逸委員ヲモ出席セシムルコトニ決定尚今後該
委員會經過ハ顯著ナル出来事ナキ限り一々電報致サズ
転電郵送先往電第九九号ノ通

(内) 各子會社ハ親會社理事会決定ノ事業ヲ平等ニ引受ク理事
會決議ニ反對シタル理事所属株主ハ右引受義務無シ賛成シ
タル方ハ二倍迄引受ク
(ロ) 各會社ハ(イ)各種債務ノ承認(ロ)法制ノ確立(ハ)貿易ノ保証等
三条件ヲ滿タサザル国トノ取引又ハ事業ヲ為サズ
(ハ) 五国ハ三月十一日迄ニ保証ニ對スル決定ヲ報告シ同月末
日迄ニ會社設立ヲ視ル様努力ス可シ
(ロ) 何レカノ三国ニシテ子會社設立並資本募集ノ手續整ハバ
該子會社及親會社設立ス（一日）
在歐洲各大公使ヘ郵報セリ

一四九 三月一日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

歐洲復興會社設立委員會決定事項中「日本ノ
参加勧誘」ニ付稟申ノ件

第一一九号 （三月二日接受）

往電第一一八号ニ関シ

該決定各項中(三)ニ日本ニモ尚参加勧誘ノ事トナリ居ル
ハ別ニ深キ意味アルニ非ズ貴電第七六号ノ次第ヲ往電第九
九号ノ如キ形式ニテ會議ニ持出シタル結果後日我國ガ参加

ノ希望生ジタル場合ニ対シ余地ヲ存スル様立案セラレタルモノニ過ギズ右勸誘ハ更メテ書面等ニテ我方ニ申越ス事トナルベキヤ否ヤハ明瞭ナラザルガ別段更メテ申越無キ場合ニハ此儘ニ差置キ何等申越ニ接シタル場合ニハ往電第九九号大久保陳述ヲ参照シ送り返シ置ク考ニ付右御承知置相成リタシ

各大使へ郵送ス

一五〇 三月三十一日 内田外務大臣ヨリ
在英園林大使宛(電報)

歐洲復興會社各子會社資本額ニ付問合ノ件

附記 三月二十五日在倫敦森財務官發高橋大藏大臣宛

電報特第一四号

歐洲復興會社ニ関シ意見上申ノ件

第一二八号

森財務官發大藏大臣宛特第一四号ニ関シ

一、貴電第一一八号(一)ニヨレバ各子會社資本額ハ四百万磅相当額トアリ仮ニ我國加入ノ結果各子會社ノ親會社ニ對スル引受額減少シ從テ其資本額モ減少スルモノトスルモ我國ニ於テ他トノ振合上過少ニ思考セラルル百万磅相

當額ノ資本ヲ以テ子會社ヲ創立シテ以テ本件事業ニ参加スルコト差支ナキヤ又最低限度ノ意義如何

二、右ニヨリテ二票ノ代表權ヲ獲得スルトアル処代表權ト出資額トノ關係如何

右二点ニ付至急御回電アリ度シ

(附記)

三月二十五日在倫敦森財務官發高橋大藏大臣宛電報特第一四号
歐洲復興會社ニ関シ意見上申ノ件

特第一四号

第一

國際會社ハ「ゼノア」會議ニ拘ハラス創立セラルベキモノナリト雖モ英國意中ニ於テハ此會社ヲ提ゲ「ゼノア」會議ニ臨ミ其ノ決議スベキ歐洲復興策実行ニ依リ諸國ハ會社ノ援助ヲ受クルノ利益アルヲ知ラシメントス殊ニ露國「ソヴィエト」政府ニ對シテハ承認若クハ通商ノ条件ヲ実行セシムル為メノ奨励ノ具タラシムルコトヲ期ス

蓋シ「ソヴィエト」政府ハ主要列國間利害衝突ヲ奇貨トシ漁夫ノ利ヲ占メントスル故ニ茲ニ此會社ノ組織ヲ以テ主要列強間ノ經濟的結束ヲ示シ「ソヴィエト」政府慣用手段ノ

余地ナキヲ覺ラシメントス故ニ「ゼノア」會議予備會議ニ於ケル英國提出ノ協定案ハ第一条署名國政府ハ本會社ノ創立及經營ニ協力スヘシトノ約束ヲ以テ始マリ第一条ノ援助ヲ受ケントスル國ハ速ニ担保財産ノ調達ニ着手スヘキヲ規定シ此ノ如クシテ「ゼノア」會議ト結ヒ付ケントス

第二

本會社ノ經濟的価値ニ付キテハ英國諸友ノ間ニ其ノ意見兩分セリ海外貿易局ノ創立ヲ援助シタル革新論者ハ其效果ニ信賴シ伝統的自由貿易論者ハ重キヲ置カス但會社ハ純然タル Business basis タル可キノ了解ノ下ニ強テ反對セズ又一般輿論ハ多クヲ覺ラズ

第三

本會社ニ對シテ我國ノ考慮スベキハ

A、會社ハ其ノ營業範圍ニ制限ナク露國トノ關係上他日極東ニ其ノ手ヲ延バス時アルヲ覺悟スヘク其際之ト競争ノ地位ニ立ツ事利益ナリヤ若シ不利トナリテ後加入セントセバ益不利ノ地位ニ立ツコトナキヤ

B、本會社ノ經營ニ関シ我國ハ全然門外漢トナリ物資材料注文ノ方向其他金融經濟界ニ影響ヲ及ボスベキ一切ノ活

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一五〇

動ニ付何等知ル能ハザル地位ニ立ツコト我ニ取テ不利ナラズヤ

C、又我國ハ政治的ニ於テハ歐洲主要國ノ中ニ列シ得タルニモ拘ハラズ經濟上ニ於テハ列強ト協力スルヲ拒絕スルトセバ列強ハ勿論歐洲諸國ノ日本ニ對スル態度ニ變更ヲ來タシ其結果我國ハ政治的孤立(脱字?)經濟的ニモ孤立スルニ至ルノ虞ナキヤ

D、米國ハ目下ノ政情トシテ歐洲政治界ニ關係スルヲ好マズ從テ「ゼノア」會議ニ加入セズ今直ニ此會社ニ加入セザル可シ然レドモ他日歐洲經濟界整理ニ協力ノ時アルヲ覺悟スルハ明ナリ若シ米國加入セバ本會社ハ益強力トナル可ク此時ニ際シ我國ノ地位ハ困難トナラザルカ

第四

以上ノ諸点ハ元來我經濟界ニ於テ考慮スベキ所ナリ而シテ在英二三ノ實業家ニ徵スルニ加入ノ切望ト出資難トノ間ニ挿レリ然レトモ政府ニ於テモ我資本家ヲシテ我經濟界ノ將來ニ着眼セシメ悔ヲ後日ニ遺スヘキコトナキヤノ深念ヲ尽サシムル為メ今一応再考ヲ促スノ必要ナキヤ前項諸点ニ備フル為メニハ出資ハ最小限ニ止メ三井、三菱等五六ノ大家

ヲ合シテ総額百万磅相当額ノ会社ヲ創立セシメ其内一〇%ヲ親会社ニ出資ニ票ノ代表權ヲ取り置クノミニテモ可ナラシ又政府ニ於テモ其出資ヲ容易ナラシム様考慮ノ途ナキヤ曩ニ創立準備委員會ニ於テ我委員ハ訓令ヲ奉シテ不加入ヲ予告シタリト雖モ会社ハ一応日本ニモ勧誘スヘシ又「ゼノア」會議ニ於ケル協約案第一条ノ所謂政府協力ハ其出資ノ如何ニ拘ラズ我代表者ハ賛成ヲ宣明スルニ故障ナキ文句(脱字?)スルモ若シ政府ニ於テ更ニ進ンデ民間出資ニ尽力スルノ決心アラバ右宣明ニ當ッテモ強弱ノ兼合アリ林大使大久保委員共ニ今一応ノ御考慮ヲ切望セラルル次第モ有之玆ニ上申ス

(三月二十五日)

一五一 四月二日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興會社各國子會社資本額ニ関スル問合

ニ対シ森財務官ヨリ回答ノ件

附記 三月三十一日在倫敦森財務官發高橋大藏大臣宛
電報特第一六号
歐洲復興會社ニ関スル英國原案ヲ修正セル要点
報告ノ件

依テ勿論親會社ニ調達ノ義務ナキモ

(a) 要スルニ本邦加入最低限ヲ上申シタルハ本會社差向ノ事業ノ性質ニ鑑ミ又我國財界ノ現状ヲモ考慮シ主トシテ森財務官發大藏大臣宛特第十四号第三ニ列挙シタル諸点ニ備フル為必要ナル最少限度ニ止メタル次第ナリ

尚財務官ノ意見ニ依レバ子會社ハ親會社ノ指定スル以外ノ事業ヲ為スコトヲ得ザルガ故ニ日本ニ子會社設立セラルルトセバ此点ニ付一応法律家ノ意見ヲ徵セラルルノ要アルベキカトノコトナリ

貴電ト共ニ在仏大使ヘ転電セリ

(附記)

三月三十一日在倫敦森財務官發高橋大藏大臣宛電報特第一六号
歐洲復興會社ニ関スル英國原案ヲ修正セル要点報告ノ件

特第一六号

(大藏省四月二日接受)

第二、

歐洲復興英國原案(特第一二号第二、第三参照)ヲ修正シタル要点ノミ報告致候

A、財政決議

1、通貨

A、通貨改良ノ一策ハ中央銀行間ノ継続的協力ヲ發展

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一五一

第二一八号

(四月三日接受)

貴電第一二八号ニ関シ

森財務官ノ説明左ノ通り

定款ニ依レバ子會社ノ資本額ノ一割ヲ親會社ニ讓出スルモノトシ讓出額十万磅以上ハ一名ノ代表取締役二十五万磅以上二名但一子會社ヨリ二名以上ノ代表者ヲ出ス能ハズ尤此代表者ハ讓出額五万磅毎ニ一票ヲ行使ス故ニ親會社ニ一人ノ代表者ヲ出サントセバ各國ニ創立スヘキ子會社ノ資本額ハ最低限度百万磅ナリ惟フニ百万磅ノ子會社ヲ以テ加入スルハ列國トノ振合上過少ナルカ如キモ

(a) 國際會社元来ノ目的ニ照シ又其ノ差向ノ事業ハ直接我國若クハ東洋方面ニ關係アル方面ニ向ハザル可キガ故体面ノ問題ニ関スルモノトハ思ハレズ此程度ノ加入ノミニテモ本邦援助ノ行為ハ歡迎ヲ受ク可シ

(b) 子會社ノ為スヘキ事業ハ親會社ノ指定スヘキ事業ナリ子會社ノ代表者其ノ事業ニ反対セハ子會社ハ引受クルノ義務ナク又賛成セバ事業ハ資本額ニ応ジテ引受クルモノナルカ故ニ子會社資本ノ高ハ事業引受ケニ差支ヲ生ゼズ

(c) 又親會社ニ事業資金調達周旋ヲ依頼スル途モ開キアリ

セシムルコトナリ中央銀行(必ズシモ歐洲ニ限ラズ)

ノ永續的結合又ハ協商ハ各銀行預金ノ自由ヲ拘束スルコトナクシテ信用政策ニ協調ノ機會ヲ与フヘシ

右ノ建議ヲ最モ円満ニ實現スル方法ヲ講ゼン為メ中央銀行代表者會合ヲ速ニ開催センコトヲ提議ス右ノ修正ハ Association ノ文字ハ仏語ニテハ法律上ノ義務ヲ負担セシムル意味ヲ包含スルヲ以テ Entente ニ

テモ差支無之トノ意味ヲ明確ニスルノ必要及此ノ如キ事ハ直接利害關係アル銀行家自身ヲシテ決定セシムヘシトノ仏國委員ヨリノ主張ニ依レルモノナリ

B、金為替本位ニ基ツク國際協定締結案ハ此際時機尚早ナレバAノ銀行家會合シテ本問題ヲ研究セシムヘシトノ説仏伊委員ヨリ出デ英國伊國ハ原案維持ニ努メタルモ結局原案附属ノ貨幣協定ハ他日適當ノ時機ニ於テ締結ストノ文言ヲ加ヘ其協定ハ金需用ノ集中及ヒ調節ヲ目的トシ例之金為替本位又ハ國際清算所制度ノ如キ準備ヲ在外勘定ノ形ニ於テ維持シ以テ金ノ使用ヲ節約スル方法ヲ規定セシムヘシト決セリ

2、信用

原案中國際会社計画ノ趣旨ニ付キテハ何人モ歡迎スルモ同会社ガ未ダ形式的ニ設立セザルニ先ンジ承認ヲナスハ時機尚早ノ嫌アリトノ説仏國委員ヨリ出デ其意味ニ基キ文字修正アリタリ

3、為替

為替取引ノ人為的制限ハ目的ノ何タルヲ問ハズ等シク有害ナリトノ原案ニ対シ仏國委員ハ資本流出防止ノ為メニ取レル賠償委員會ノ対独方策ヲ考慮シ之ニ反対シタルヲ以テ此点ニ付テ意見一致ヲ得ザリシ旨ヲ附記スルコトトセリ

B、經濟決議

關稅定率及輸出入制限

本問題ニ就キテハ伊國ヨリ詳細ナル提案アリ之ニ基キ原案ニ追加セラレタル條項ノ要点ノミ報告致候

1、各國關稅定率ヲ公表スヘキコト

2、原料品ニ對スル歲入目的以外ノ輸出稅廢止及輸出稅ノ差別待遇ノ禁止

3、貨物ノ輸出入及通過ノ許可及課稅ニ關シテハ成ル可ク原產地ニ於ケル認識セラレタル機關ノ發行スル証明

書ノ効力ヲ認ムルニ付相互ノ取極ヲ締結スルコト
A、伊國提案中一般的ニ最惠國條款ノ待遇ヲ与ヘムトスル條項ハ仏國委員ノ反対スル所トナリ單ニ附記スルニ止メタリ

B、爭議ニ關シ仲裁裁判所制度ヲ設クヘシトノ條項ハ單ニ研究ノ價值アルコトヲ附記スルニ止メタリ尚會議ニ於テ英國原案中ノ特別ノ目的ノ為ニ輸入ヲ禁止シ得ル件ニ付日本伊國ハ削除ヲ主張致シタルモ英仏之ニ反対シ結局禁止及独占ハ外國市場又ハ供給地ノ異ルニ依リ人為的差別待遇ヲナスノ目的ニ用ウ可カラズトノ規定ヲ追加スルコトナレリ

(三月三十一日)

一五二 四月十二日

内田外務大臣ヨリ
在ゼノア經濟財政會議代表宛(電報)

歐洲復興會社ニ關スル從來ノ我方針變更シ兼
ヌル旨回訓ノ件

第五号

林大使來電第一九一號復興會社ノ件ニ關シ森財務官稟申ノ次第二對シテハ篤ト考量ヲ遂ゲタルモ未ダ會議ノ形勢モ判

明セザル今日遽ニ從來ノ方針ヲ變更シ兼スルニ付差向ノ処

先般訓令ノ趣旨ヲ含ミ然ルベク措置セラレタシ

尚貨幣協約問題及中央銀行協力ノ問題ニ關シテハ大蔵大臣

發森財務官宛會議第二号及第三号参照アリ度シ

英仏伊ニ転電アリタシ

一五三

四月三十日
在ゼノア經濟財政會議代表ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興會社ニ關スル定款草案中改正セラレ
タル点報告ノ件

第一四〇号

(五月一日接受)

四月二十九日午前十時半ヨリ「インターナショナル、コーポレーション」設立委員會開催 Lord Inverforth 議長トナリ仏白伊独波瑞典諸國西班牙丁抹「チェッコスロヴァキア」加察陀等ノ代表者及大久保出席義ニ倫敦ニ於テ決シタル定款草案中左ノ通改正セリ

一、「セントラル、コーポレーション」取締役選任權ヲ与フル最低持株數ヲ十万株ヨリ五万株ニ減ズル事

二、右ノ如クスル時ハ「セントラル、コーポレーション」取締役多數トナリ事務執行上不便ナル故取締役會中更ニ

一 歐洲復興及賠償問題ニ關スル諸會議開催ノ件 一五三

一五四

一五四 五月三日
内田外務大臣ヨリ
在ゼノア經濟財政會議代表宛(電報)

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一五五 一五六

二〇二

歐洲復興會社ニ関シ其事業目的及實際經營スベキ事業ニ付問合ノ件

第三八号

歐洲復興會社ノ件ニ関シ左ノ二点至急回電アリタシ

一、在英大使來信公第四九号倫敦ニ於ケル同會社設立準備委員會議事録ニヨルニ同會社ノ事業目的ハ主トシテ露國經濟復興ニ在ルヤニ見受ケラルル処此点ニ付倫敦ニ於テ何等カ了解ナカリシヤ又聯合側ニ於テ露國ノ要求ニ応ジ財政援助ヲ与フルコトナル場合ニハ此目的ノタメ該會社ガ對露財団ニ轉化スルカ如キ形勢ナキヤ

二、復興會社カ独露其他ノ方面ニ於テ實際經營スベキ事業ハ具體的ニ言ヘハ如何ナル種類ノモノナリヤ例ヘハ鉱山鐵道等ニ對スル投資、經營引受、材料供給等ヲモ含ムベキヤ

一五五

五月四日

在ゼノア經濟財政會議代表ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

歐洲復興會社ニ關スル問合ニ對シ回答ノ件

第一五八号

（五月六日接受）

貴電第三八号ニ関シ

ニ見受ケラルル処申ス迄モナク米國ノ態度如何ハ復興事業ノ成否ニ多大ノ影響アルハ勿論本問題ニ對スル帝國ノ政策決定上特ニ重要ノ關係ヲ有スル次第ニ付

（一）独逸方面投資ニ關スル米國財界ノ意気込並具體的計畫

（二）對露財政援助及利源開發ニ關スル米國朝野ノ意向並具體的計畫ノ有無

（三）米國財業者ハ歐洲復興會社ニ對シテハ依然參加ノ意向ナク独立シテ活動セントスルモノナリヤ否ヤ

（四）聯合國間戰時債務整理問題ニ對スル米國側ノ態度等ニ關シ此際貴官ノ御觀測取纏メ電報アリタシ

右訓令トシテ在紐育總領事ニ轉電シ參考トシテ「ゼノア」及独逸ヘ轉電アリタシ

一五七

五月二十日
内田外務大臣ヨリ
在ゼノア經濟財政會議代表宛（電報）

歐洲復興內國子會社ノ成否通知ニ關スルゼノ

ア會議決定ニ付問合ノ件

附記 五月十六日末弘博士記復興會社ト我法制トノ關

係

第六四号

一 歐洲復興及賠償問題ニ關スル諸會議開催ノ件 一五七

一、會社設立準備委員會議事録ニモ在ルガ如ク本件ニ関シ仏國委員ノ質疑ニ對シ議長委員ハ會社事業ノ目的ハ設立ノ曉「ボアード、オヴ、ディレクターズ」具體的ニ之ヲ決定スベキモノト述ヘタリ從テ右會議場ニ於テハ「エクスプレスリー」ニハ諒解ナカリシモ露國ヲ主タル目的トスルハ以心伝心ノ諒解ナリ之実ニ「ゼノア」會議「アジアンダ」ノ主要項目ニ本件ヲ掲クルニ到リタル所以ナリトス

二、同電（ハ）御來示ノ通り

三、從テ復興會社ハ一面ニハ直接事業ノ經營ニ當ルト同時ニ將來對露財団トシテ其方面ニ活動スル使命ヲ帶ブルコト明白ナリ

一五六

五月十一日

内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利臨時代理大使宛（電報）

歐洲復興問題ニ對スル米國側ノ態度等ニ關スル觀測回電方訓令ノ件

第二四二号

貴電第二七〇号其他貴方面ヨリノ報道ヲ綜合スルニ歐洲復興問題ニ對スル米國側ノ態度ハ近來漸次變転ノ模様アルヤ

日本ニ於テ復興會社ニ參加スヘキヤ否ヤハ主トシテ對露財政援助問題ノ成行ヲ見テ決定シ度キ考ナルガ對露信用問題ガ海牙會議ニ附議セラルルコトナレル今日ニ於テモ尚貴電第一四〇号ノ如ク「ゼノア」會議終了後三十日以内ニ內國子會社ノ成否ヲ「セクレタリー」ニ通知スヘシトスル四月二十九日ノ決定ニハ變更ナキ次第ナリヤ回電アリ度シ

（附記）

復興會社ト我法制トノ關係（大正十一年五月十六日末弘博士記）

第一章

本件子會社ヲ現行法ノ儘ニテ一特別ノ立法ヲ為サスシテ一設立セムトセバ先ヅ第一ニ其果シテ公益ヲ目的トスルヤ又ハ營利ヲ目的トスルヤヲ明カニスルヲ要ス

一、若シ公益ヲ目的トスルトセバ其設立ハ民法第三十四条以下ノ諸規定ニ依リテ之ヲ為スベキモノトス

二、若シ又營利ヲ目的トスルモノトセバ

イ其「營利」ガ商行ヲ為スニアラバ商法第四十二条以下ニ依リテ之ヲ商會社ト為シ得ベキモ之ガ為メニハ本件子會社ノ事業目的ガ商行ヲ為スニアルコトヲ明カニセザルベカラズ

二〇三

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一五八
ロ又其「營利」ガ商行為以外ノ方法ニ依ル營利ヲ為ス
ニアリトセバ其設立ハ民法第三十五條及ヒ商法第四
十二條ニ依リ所謂民事会社トシテ為シ得ベキモノナ
リ

然レドモ現在我國ノ判例及ビ學說ハ一般ニ「營利」
トハ会社乃至法人ガ利ヲ得テ之ヲ株主乃至社員ニ分
配スルコトヲ謂フモノト解セルガ故ニ本件子会社ヲ
此種ノ民事会社トスルニ付テハ其点ヲ明カニシ置ク
コトヲ要ス

第貳

一、日本会社ガ外国会社——本件ニ於テハ英國会社——ノ株
主乃至社員トナル事ハ差支ナシ但シ日本会社ノ定款
ト矛盾セザル範圍内ニ於テスルヲ要スルヤ勿論ナリ
二、日本会社ニシテ外国会社ノ株主タルコトノミヲ唯一
ノ目的トスルモノノ設立モ亦現行法上之ヲ不可能ト
スヘキ理由ナシ

三、日本会社ガ外国ニ於テノミ事業ヲ営ムコトヲ目的ト
スルモ差支ナシ現行法上之ヲ禁ジタル規定ナシ

第三三八号

(五月二十九日接受)

貴電第二四二号ニ関シ

歐洲復興問題ニ對スル米國政府ノ態度ハ近来ニ到リ別ニ變
転シタルニ非ズ同政府ハ復興問題ニ就テハ歐洲諸國自ラ之
ニ當ルヘキモノト為スヲ以テ政府直接ノ財政援助ノ如キハ
問題トナラズ米國政府ハ右ハ寧ロ財界當業者ノ努力ニ俟ツ
ベク財政援助モ當業者ガ政府ノ承認ノ下ニ(本年三月國務
長官ハ當國市場ニ將來外國債ヲ發行スル場合ニハ一應政府
ノ意見ヲ(脱)旨ヲ諭告セリ)「ビジネス、プラン」ニ依
リ之ヲ為スヘキモノト認メ居レリ更ニ當國朝野ノ意嚮ハ貴
電御來示ノ諸点ニ就テハ

一、近来當國金融市場ガ外國投資ノ機運ニ向ヒ居ルハ事實
ナルガ最近大藏省理財局長ノ内話ニ徴セルニ独リ独逸ニ
對スルモノノミナラズ歐洲一般ニ對スル投資ニ就テモ目
下一般ニ研究中ニシテ米國政府ニ容レラルル程度ノ具体
的成案ハ無之模様ナリ又當方ニ於テ取調ベタル所ニテハ
在仏大使發閣下宛電報第三六九号ノ財業者ノ団体モ仏國
政府ノ招請ニ応シ渡仏セルモ單ニ將來ニ於ケル仏國公債
賣出ノ予備手段タルニ止マリ何等具体案ヲ携ヘ行キタル

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一五九

一五八 五月二十四日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興內國子会社ノ成否通知問題ニ付回答
ノ件

第三一五号

(五月二十五日接受)

「ゼノア」宛貴電第六四号ニ関シ四月二十九日ノ取極其後
變更セラレタリト見ルヘキ節モナク且復興会社ノ目的必ズ
シモ露國問題ニノミ限ラザルニモ願ミ「ゼノア」會議終了
後三十日內ノ期間ハ依然其儘ト解スルノ外ナシト認メラレ
為念大久保ヲシテ設立委員會「セクレタリー」ニ尋ネシメ
タルニ其意見モ同様ナリ尤同人ハ事實上右期日迄ニ決答出
揃フヤ否ハ別問題ナリト言ヒタル由旁我御決定困難ナラバ
該期間內ニハ通知出來難キ旨適當ノ時機ニ申入ルコトハ
別段差支ナカルベキカト存ズ
在仏大使ハ郵送セリ

一五九 五月二十八日

在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興問題ニ對スル米國朝野ノ態度意嚮ニ
付報告ノ件

ニ非ザル趣ナリ尚「モルガン」カ銀行家會議ニ参加スル
ニ當リ或ハ政府ノ旨ヲ受ケ居ラザル(ヤノ)趣ナルガ其
然ルヤ否ヤニ就テハ明カナラズ當業者ノ意嚮等ニ就テハ
紐育總領事ヨリ報告アル筈

二、次ニ對露財政援助ニ関シ「ゼノア」經驗ニ鑑ミ當國ノ
對露方針益々強固ヲ加ヘタル今日政府ノミノ對露財政援
助(例ヘハ政府借款)ハ元ヨリ問題ト成ラズ露國利源問
題ニ就テモ過般露國部長ガ本官ト私談中利源開發ニ関ス
ル何等真面目ノ計畫ハ未ダ無之旨ヲ告ゲタリ尤モ米國政
府ガ正式ニ對露通商ヲ認メザルニ拘ラズ米露貿易ハ着々
行ハレ居リ又(一九二一年ノ對「ソヴィエト」露國輸出
額ハ英國ノ分ヲ超過シ居レリ)石油問題等露國利權ノ獲
得ニ就キ今後共個人トシテ冒險的活動ハ有リ得ベキモ米
國政府トシテハ從來ノ主張ガ承認セラレザル限り積極的
方針ニ出デザルベキハ明カナリ

尚米國ノ對露救済團ハ半官的ノ施設ニシテ露國民救済ノ
純然タル慈善事業ナルモ今日迄既ニ六千万弗以上ノ資金
ヲ投ジ救済ノ実ヲ舉グルト共ニ露國數千万ノ民心ヲ収メ
居ル事實ハ注意ヲ要スヘキナリ

三、歐洲復興会社ノ如キ國務省及大藏省側ニテモ本官ノ接
触シタル限り一人モ注意ヲ払ヒ居ル者無ク英大使ノ如キ
モ当國ニ於テハ斯ル計画ニハ何等「インタレスト」セズ
ト謂ヘリ歐洲銀行會議ニ紐育「フェデラルレザーヴ」頭
取「ストロング」ガ出席スベシトノ風説アリタルモ最近
ニハ同氏ハ多分渡欧セザルベキ旨内聞セリ右中央銀行會
議ニ關聯シ「レザーヴ」ノ現有スル金ノ剰余ヲ歐洲中央
銀行ニ貸与スベシ等ノ歐洲側ヨリノ希望当地ニ伝ハリ已
ニ輿論ノ反対モアリ且ツ「フェデラル、レザーヴ」ノ現
在ノ制度ニ鑑ミ今日迄ノ所ニテハ金ヲ其儘ニ歐洲ニ貸出
シ又ハ國際借款ノ發行ニ参与スルガ如キ事無カルベキ形
勢ナリ但シ通貨ノ基礎ヲ確定スル為何等カ國際的施政ノ
必要ヲ提唱スル者ハ尠カラザルニ付此議論ガ将来如何ニ
發展ヲ来スベキヤハ予断シ得ザルベシ

四、聯合國間ノ戰時債務整理問題ニ對スル米國現在ノ態度
ハ本年二月法律ヲ以テ設置セラレタル戰時債務委員會ノ
權限ニ依リ之ヲ推知シ得ヘク（公第九六号報告済）

貿易業者中ニハ戰時債券ノ利子スラ回収ノ見込ミ少キニ
依リ寧ロ之ヲ破棄シ對歐貿易ヲ進行スル方有利ナリト議

ヤ取調ノ上回電アリ度シ
右訓令トシテ仏伊ニ転電シ又貴電第三一五号モ伊國ヘ転電
アリ度シ

一六一 六月九日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

歐洲復興会社設立ニ關スル進行狀況ニ付回答
ノ件

第三四七号 （六月九日接受）

貴電第二一八号ニ關シ

大久保ヲシテ英國側「セクレタリー」ニ就キ其後ノ情況ヲ
訊ネシメタル処先方ニ於テハ他ノ諸國ニ於テ其準備進捗シ
各國資本ノ比例等定スルニ於テハ英國側ハ何時ニテモ設立
ニ取掛ル予定ニテ該資本ハ公募スヘク補償ノ問題ニ就テハ
元本補償ハ既定方針ノ通利子補償ハ必要アラハ政府ニ依頼
スル積ナルガ之ニ對スル政府ノ態度ハ不明ニシテ最初ハ之
ヲ喜バザルモノノ如カリシモ最近ニ至リ政府モ会社側ヨリ
依頼アリタル際ハ是ヲ考慮スベシトノコトナリタル旨返
答アリタル趣ナリ

論スル者アルモ目下ノ処對聯合國債權ノ破棄ノ如キ事ハ
到底問題トナラザル可ク況ンヤ前記委員會ノ關スル限り
債權ノ解除ハ固ヨリ當國ノ對聯合國債權ヲ聯合國ノ對獨
債權ニ書替ヘル事ヲモ明文ヲ以テ禁ゼラレ居レリ委員會
トシテハ四分二五以上ノ利子ニテ二十四年以内ノ長期債
權ノ書替ヘニ応ズル權限ヲ有スルニ過ギザル現状ニシテ
其權限ハ余リニ限定セラレ居リテ如何トモスル事能ハス
トノ意見ヲ有スル者多ク委員會ハ漫然各債務國トノ交渉
ノ期ヲ待チツツ在ルモノノ如クナルモ英仏兩國委員渡米
何レモ延期セラレタル趣ニテ今日ノ処委員會ガ正式ニ談
判ヲ開始スルノ時期サヘモ不定ナリ

在歐洲各大使ヘ転電セリ

一六〇 六月三日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛（電報）

歐洲復興会社設立ニ關スル計画ノ進行狀況ニ

付取調方訓令ノ件

第二一八号

貴電第三一五号ニ關シ復興会社設立ノ件ハ責任國關係者間
ニ於テハ如何ナル程度迄具体的ノ計画進捗シ居ル次第ナリ

一六二 六月十三日 在伊國諸井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

歐洲復興会社問題ニ對スル伊國ノ態度報告ノ件
第一〇五号 （六月十四日接受）

在英大使宛貴電第二一八号ニ關シ十二日館員ヲシテ國庫省
主任者ニ聞糺サシメタル処本件ニ關シテハ先頃來三發行銀
行其他ノ大銀行ト協議中ノ処既ニ其定案ヲ得タルニ付不日
閣議ヲ經テ議會ノ承認ヲ求ムル事トナル可ク元利ニ付政府
ノ保障ヲ要求シ居リ政府之ヲ与フル考ヘナルガ其限度及方
法等ニ付相當議論ヲ免カレザル可ク主トシテ議會殊ニ下院
ノ態度如何ニ依リテ決定セラル可キ問題ニシテ今ヨリ一週
間位ノ内ニハ何トカ目鼻付クナラムト思ハル尚「ゼノア」
會議終了後三十日以内ニ為ス「デクラレーション」ニ付テハ
單ニ政府カ當該法律案ヲ議會ニ提出シタル事ヲ Declare
スレバ足ルモノト了解シ居レリ云々

英仏ヘ転電セリ

一六三 六月十五日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

歐洲復興会社ノ親会社及子会社參加方ニ關ス

ル決定の回答ニ付請訓ノ件

第三六一号(至急) (六月十六日接受)

往電第三一五号ニ関シ六月十三日本件設立委員会「セクレタリー」Binder ヨリ大久保宛書面ヲ以テ国際親会社及子会社参加方ヲ確定のニ通告ス可キ一ヶ月ノ期間本月二十日ヲ以テ滿了ス可キ処日本側ノ決定の回答モ同日迄ニ到着スル事ト了解スル旨申来レリ就テハ前記往電御参照ノ上何分ノ義至急御回訓ヲ請フ

仏ヘ郵送シ前電ト共ニ蘭ヘ転電シ白伊独ヘ郵送ス

一六四 六月十六日

内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

歐洲復興会社ノ親会社及子会社参加問題ニ関

シ回訓ノ件

第二三三三号

貴電第三六一号ニ関シ

本件ハ我財界目下ノ情勢並過般来ノ政変等ノ為期限内ニ決定の回答ヲナス運ニ至リ難カルベシト思考スルヲ以テ其旨先方ニ通シ置カレ度ク勿論可成速ニ我方ノ態度決定ノ上追テ申進スヘシ

一六六 七月三日

在本邦仏國大使ヨリ
内田外務大臣宛

歐洲復興國際会社ヘノ日本参加問題ニ関スル

日本政府ノ意向ニ付非公式問合ノ件

Ambassade de France Tokyo, le 3 juillet 1922.
au Japon

Mon cher Ministre,

Je suis chargé de vous entretenir d'une manière officieuse de la question suivante.

Le Comité d'organisation du consortium international de reconstruction de l'Europe a tenu à Gênes le 28 avril une séance à laquelle le Japon était représenté.

A cette séance il a été décidé que les Gouvernements qui désirent participer au Consortium donneraient leur réponse définitive dans les 30 jours qui suivraient la clôture de la Conférence de Gênes, c.-à-d., avant le 30 juin.

Je serais vivement reconnaissant à Votre Excellence de me faire savoir si le Gouvernement Japonais a

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一六六

一六五 六月二十三日

西野大藏次官ヨリ
埴原外務次官宛

歐洲復興会社ニ参加シ得ザル旨回答ノ件

官房秘丙第八五号

大正十一年六月二十三日

大藏次官 西野 元(印)

外務次官 埴原正直殿

復興会社参加方通告ニ関スル件

本年六月十七日欧二機密合第三九七号ヲ以テ国際經濟復興会社ニ本邦カ参加スルヤ否ヤニ関シ決定の回答ヲ同会社設立委員会「セクレタリー」ニ為ス件ニ付当省ノ意見御照会相成候処既ニ参加ヲ決シタル英伊兩國ノ实例ニ徴スレハ国内会社ノ資本ニ付元本及配当ヲ政府ニ於テ保証スル趣ニ有之本邦財政ノ現況ニ於テ斯ノ如キコトハ到底不可能ニ有之且又資本ヲ民間ニ於テ公募スルモ本邦經濟界ノ現況ニ於テハ之ニ応ズルモノナカルヘク候從テ本邦ノ現狀ニ於テハ参加スルコト能ハザルモノト被認候条右ノ趣旨ヲ以テ設立委員ニ御回答相成候事可然ト存候右及回答候也

L'intention d'adhérer au Consortium international et dans ce cas de m'indiquer quel serait le montant approximatif de sa participation. Donnerait-il au capital engagé la garantie de l'Etat?

Je remercie par avance Votre Excellence de la réponse qu'Elle jugera possible de m'adresser et je La prie d'agréer l'assurance de ma plus haute considération et de mes sentiments les plus sincèrement dévoués.

(Signé) P. Claudel

Son Excellence

M. le Comte Uchida

Ministre des Affaires Etrangères

etc. etc. etc.

Tokyo.

(丹和語文) (註 係官作成ノ仮訳文ナリ)

拝啓陳者本使ハ次ノ問題ニ関シ非公式ニ閣下ト御相談致シ候様命セラレ候

歐洲復興ニ関スル國際会社(コンソルシウム)組織委員會ハ四月二十八日「ゼノア」ニ於テ會議ヲ催シ日本國モノニ

代表者ヲ参加セシメラレ候

同會議ニ於テハ右「コンソルシウム」ニ参加方希望ノ諸政府ハ「ゼノア」會議閉会後三十日以内即チ六月三十日以前ニ其ノ確答ヲ發スルコトニ決議相成居リ候

本使ハ日本政府カ右國際会社ニ参加ノ意向ヲ有スルヤ並其ノ参加ノ場合ニハ其ノ持分概算ハ如何ナルヤヲ承知致度尚又日本政府ハ其ノ投資額ニ對シ國庫ヨリノ保障ヲ供与セラ

ル可キヤ御回示ニ接シ得レハ幸甚ニ候

本使ハ右ニ對シ閣下ヨリ御米示アルヘキ御回答ニ付予メ感謝ノ意ヲ述フルト共ニ玆ニ深厚ナル敬意ヲ表シ候 敬具

一六七 七月六日 岡本農商務次官ヨリ
壇原外務次官宛

歐洲復興國際会社ニ参加方希望ノ旨回答ノ件

附記 七月十一日復興会社ニ関スル森財務官談話

商第四四四四号 (七月七日接受)

大正十一年七月六日

農商務次官 岡本英太郎(印)

外務次官 壇原正直殿

六月十六日附歐二機密合第三九七号ヲ以テ御照会相成候復

了後ナリシニ不拘一般輿論ガ本件ニ関シ案外冷淡ナルヲ見テ同官ハ意外ノ感ヲナセリ依テ本計画ノ真相並ニ英國實業家ガ之ニ對シテ如何ナル態度ヲ持シツアルヤヲ知ランガ為メ先ズ Charles Sale 氏ニ就テ略本計画ノ輪郭ヲ知ルヲ得タル後改メテ本件産婆役タル Sir Robert Kindersley ヲ加ヘテ會談交々其意見ヲ徵シタリ元來 Sale 氏ハ本件ニ對シ余リ氣乗リセズ反之 Kindersley 氏ハ頗ル熱心ナルヲ以テ更ニ公平ナル判断ヲ得ンガ為メ Lord Revelstoke ノ意見ヲ聴ケリ

抑戦後ノ英國實業界ニ於テハ一ノ積極主義トモ称スヘキ定説行ハルルニ至レリ即戦後貿易振興ノ為メニハ政府ニ於テモ何等カ積極的施設ヲ為サザルベカラズトナスモノニシテ外務省海外貿易部ハ此ノ新シキ主張ノ一表現ナリ Sir Philip Lloyd-Greame ハ同部長ニシテ從來共所謂積極主義ニ基キ種々首相ニ助言ヲ与ヘ來レルガ本件復興会社計畫ハ実ニ同部ノ献策ニ繋ルモノナリトス而シテ本計畫立案ノ動機ニ至リテハ一八九二〇年ノ武府財政會議ノ決議ガ何等其實行ノ際ニ於ケル報酬ニ関シ考量ヲ払ハザリシ結果トシテ徒ニ空文ニ終リタルニ顧ミ歐洲復興ノ実績ヲ収メンガ為メニハ

興會社参加方ニ関スル件ニ付テハ本邦ガ露國通商問題特ニ西伯利垂利權開拓ニ関シテ密接ナル關係ヲ有セルニ鑑ミ之等ノ問題ニ對シ有力ナル發言權ヲ得ル意味ニ於テ本邦ノ財政並金融上ノ事情ノ容ス限リ之ニ参加スルヲ得策ナリト認メラレ候条可然御取計相成度此段及回答候也

(附記)

復興会社ニ関スル森財務官談話

大正十一年七月十一日於外務省第一會議室

出席者

外務省 壇原次官、山川条約局長、松平欧米

局長、古谷公使、山崎總務課長、青

木第一課長、堀内第二課長、天羽事

務官、東郷事務官、吉沢事務官

大藏省 小野理財局長、富田國庫課長、青木

事務官

農商務省 鶴見商務局長、田島商事課長、橋本

事務官

一、「ゼノア」會議前ニ於ケル英國各方面ノ意見

森財務官ノ倫敦ニ到着シタルハ復興會社設立準備委員會終

復興要件タル諸原則ヲ実行シタル場合ニハ有形的ノ報酬ヲ本會社ニヨリテ与ヘラルコトヲ知ラシムルノ必要ニ想到シタルコトニシテ一ハ本計畫ヲ以テ間接ニ國內ニ於ケル失業者救済ノ目的ニ副ハシメントシタルニ在リ

此如経緯ヲ以テ立案セラレタル本計畫ニ関スル前記三氏ノ意見ヲ概説センニ「キンダスリ」氏ハ海外貿易部ト極メテ密接ノ關係ヲ有スル關係上本會社ノ必要ヲ力説スルコト勿論ナルガ「セール」氏ニ至リテハ本會社ノ設立ヲ經濟上ヨリハ余リニ重要視セズ單ニ此ノ如キモノアレバ何等カノ方法ニヨリテ歐洲復興ニ資スル処アルヘント云フニ止ルガ政治上ニ於テハ露國トノ關係ニ極メテ重大ナル意義ヲ有ツニ至ルベシト觀測セリ即露國ノ復興ガ外國ノ援助ニ俟タザル可カラザルコトハ何人モ疑ハザル処ナルガ援助ノ供与ニ當リテ各國区々ノ態度ニ出ヅルコトハ勞農政府ノ宣傳政治家ノ手中ニ陥ルモノニシテ最慎マザルベカラザル処ナリ故ヲ以テ聯合國間ニ經濟的結束ヲ強固ニシ各國間ニ独占競争ノ弊ヲ避ケ所謂 united front ヲ作リテ露國ニ位ミ乗ズル隙ナキコトヲ示サザルベカラズトナシ「レヴェルストク」卿ハ本會社ノ存否ハ歐洲ノ經濟的復興ニ格段ノ影響ヲ与フル

モノニアラザルベシトナスモ其平生ノ「ロイド、ジョージ」反対ニ不拘「ゼノア」會議ヲ成功セシムル為メニハ是非共必要ナリトス若シ「ゼノア」會議ニシテ武府財政會議ノ轍ヲ履マザラントセバ會議ノ採用スベキ諸決議ニ何等カノ基礎ヲ造ラザルベカラズ此ノ意味ニ於テ本会社設立ニ対スル政府ノ保証ハ絶対ニ必要ナリトナス

而シテ本会社成立ノ場合ニ於テ本邦参加ノ得失ニツキテハ余リ熱心ナラザル「セール」氏スラ其絶対ニ必要ナルヲ説キ「レヴェルストク」卿ハ殊ニ最近日本実業団ガ最近渡歐ノ際唱道シテ到處多大ノ反響アリタル日本ト歐洲トノ密接ナル經濟の提携ヲ促進スルコトナルベク又本会社成立ノ曉ハ孰レ何等カノ形ヲ以テ歐洲經濟界ノ進路ヲ標指スルコトナルベキヲ以テ日本ガ一人ノ重役ヲ理事会ニ出席セシメ置キ first hand の information ヲ得ルコトハ極メテ有利ナルヘク殊ニ本会社ノ事業ガ露國ヲ目的トスル以上他日西比利方面ニ其ノ手ヲ延スコトアルベシト見ザルベカラズ如上ノ理由ニヨリ仮令少額ニセヨ出資シテ参加シ居ルコト必要ナルベシトノ意見ニシテ以上三氏共日本参加ノ絶対的必要ナルコトニ就テハ意見一致セリ

歐洲ノ財經の復興ニ関与セザルベカラズトスルコトニ上下一致セルヲ以テ会社成立ノ曉ニハ結局参加スルニ至ルベシ又歐洲ノ復興ト云フ大看板ニ比シテ資本金ノ少額ナルハ軀テ社債ノ募集ヲ行フモノト見越サルル処然ル場合ニハ之ガ市場ヲ米國ニ求ムルコトナルヘシ
要之ニ歐洲諸國ハ經濟的ヨリモ寧ろ政治的ニ重要ナリト見居レリ

四、本計画ト本邦ノ参加

森財務官ガ当時滞歐中ノ本邦実業家門野、南条、深井氏等トノ會談ニ徴スルニ孰レモ参加ヲ必要トナシ居レルガ唯出資ノ点ニ至リテハ business concern トシテハ目下本邦財界ノ現状ニ照シテ考量ノ余地ナシト云フニ一致セリ
森財務官自身ハ本邦参加ハ絶対必要ナリトノ意見ナリ
日本ガ東部西比利ノ開発ヲ計ラントスルニ当リ本会社ニ参加セルガ為メニ却テ其活動ヲ制肘セラルルガ如キ結果トナルノ虞ナキヤトノ懸念ニ対シテハ専ラ代表者ノ手腕聲望ニヨルコトナルベキモ東部西比利ノ事業ニ全然我國ヲ除外スルガ如キコトアリ得ベカラズ

二、「ゼノア」會議中ニ於ケル復興会社問題ノ經過

元來本会社ノ設立ハ會議ト關係ナク business line ノ上ニ其準備ヲ進捗セシムル筈ナリシガ倫敦準備委員會決定ノ設立目論見書草案中ニ五ヶ國ノミガ國際会社ニ出資ノ目的ヲ以テ内國会社ヲ設立スルコトナリ居ルヲ不可ナリトシ援助ヲ与フル國モ之ヲ受クル國モ全部ヲ包含シ本計画ニ参与セントスル國全部ニ内國会社ヲ設立セシムルコトナリ此ノ方針ヲ以テ財政委員會會議事信用ノ部ノ議題トナリ結局決議中ニ現ハルルニ至レリ

三、本計画ニ対スル各國ノ態度

英國ハ保証ニ関スル法律案ノ通過ヲ見タリ
政府部内ノ意見ハ外務省ハ熱心ナルモ大藏省ハ無イヨリモアッタ方ガヨイト云フ程度ナルガ保証ニ關シテハ資本ノ保証ノミニテ充分ナリトノ見込ナリ
伊國ハ法律制定ニ至ラザルモ意氣込強ク
仏白ハ各國ノ振合ヲ觀望シツツアルモ他ノ諸國ニシテ続々本計画ヲ實現スルニ於テハ結局設立スルモノト認メラル
米國ハ政策上本件ニ対シ冷淡ナル態度ヲ裝ヘルハ本計画ガ政治會議タル「ゼノア」會議ニ關係アルヲ以テナルガ早晚

一六八 七月八日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興國際会社ヘノ参加ニ關スル確定的回答ノ期限延期ノ旨設立委員會書記ヨリ通報越ノ件

第四〇七号

(七月八日接受)

貴電第二二三号ニ關シ

七月四日 Binder ヨリ大久保宛書面ヲ以テ英國側代表者ニ於テハ關係各國中目下進行中ノ海牙會議ハ「ゼノア」會議ノ延長ト看做スヘシトノ意見ニ同感ニテ從テ本件國際会社設立ニ關スル確定的回答ハ海牙會議ノ結果ヲ知リタル後三十日間ニ之ヲ為スヘキコトニ延期スヘキ旨決定シタルニ付テハ日本側確答モ夫レ迄ニ承知致シタク他國分ハ回答ニ接シ次第通報スヘキ趣申来レリ依テ我方意嚮決定次第至急御電報ヲ請フ
貴電ト共ニ在歐各大使及海牙ヘ郵送セリ

一六九

七月二十二日

内田外務大臣ヨリ
在伊國落合大使宛(電報)

歐洲復興会社設立準備ノ模様問合ノ件

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件

一七〇 一七一 一七二 一七三

二二四

第四一號

貴電第一〇五号ニ関シ本件其後何等カ具体的進捗ヲ見タル次第ナリヤ最近ノ模様電報アリ度シ

英仏白へ転電アリ度シ

一七〇 七月二十二日

内田外務大臣ヨリ
在仏国松田臨時代理大使宛(電報)

仏国ニ於ケル復興会社設立準備ノ模様問合ノ件

第四一〇号

本月初在本邦仏国大使ヨリ本大臣宛私信ヲ以テ復興会社ノ件ニ関シ日本側参加ノ有無参加ノ場合ノ出資額及政府保証ノ有無等ニツキ問合セアリタルヲ以テ本大臣ハ本件ハ目下關係各方面ニ於テ研究中ニ属シ未ダ決定ニ至ラザル旨回答スルト同時ニ林大使來電第四〇七号通告期日変更ノ趣附言シ置キタリ右問合セハ仏国政府ノ本件態度決定上参考ニ供スル目的ニ出デタルモノト察セラルル処其後設立準備ニ付仏国關係筋ニ於テ何等カ具体的ニ進行シツツアリヤ御取調ノ上回電アリ度シ

在露在英在白大使へ転電アリ度シ

歐洲復興会社へノ参加回答期限問題ト海牙會議閉会日ニ関シ書記局ノ見解確メ方訓令ノ件

第二七九号

貴電第四〇七号ニ関シ海牙會議ハ何等ノ成果ヲ見ズシテ終了シタルノ実状ニ顧ミ同會議閉会日ヲ本件通告期日算定ノ基礎トスルコトハ其意義ヲ失ヒタルヤニ思考セラルル処書記局ニ於テハ如何ナル見解ヲ有シ居ルヤ御確メノ上其結果当方ニ電報セラルルト同時ニ在欧各大使へ本電ト共ニ郵報アリ度シ

一七四 七月二十八日

在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏国ニ於ケル歐洲復興会社設立準備模様ニ付

回答ノ件

第五三八号

(七月二十九日接受)

貴電第四一〇号ニ関シ

二十七日開場ハ Seydoux ヲ往訪シタル処氏ハ新聞ノ確報スル所ニ依レハ帝國政府ハ森財務官ノ報告ヲ聞キタル上復興会社不参加ノ決定ヲ為シタリ云々ノ駐日仏大使發電報ヲ示シタリ開場ハ右決定ニ関シテハ何等承知セズト答ヘタル

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一七四 一七五

一七一 七月二十四日

在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

伊国ノ復興会社設立準備問題ニ付回申ノ件

第一三八号

(七月二十五日接受)

貴電第四一〇号ニ関シ

本件ハ内国子会社成否ノ通知期限ガ海牙會議後三十日ニ延期セラレタルト今回ノ政変ノ為其ノ後何等ノ具体的進捗ヲ見ズ未ダ閣議ニサヘ提出セラレザル趣ナリ

英仏へ郵送セリ

一七二 七月二十六日

在白国武者小路臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興会社設立ニ関スル白国政府ノ意向報告ノ件

第八七号

在伊大使宛貴電第四一〇号ニ関シ

(七月二十七日接受)

歐洲復興会社ノ件ニ付テハ白国政府ニ於テモ差当リ其儘ニ放置シ置ク意向ナリ内密ノ御心得迄ニ申進ス

一七三 七月二十七日

内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

ニ氏ハ昨日接手シタルノミナレバ貴方へモ其内通知アラント告ゲ更ニ仏国關係者 Sergeant ハ英國側ヨリノ督促狀ニ接スルト共ニ直ニ書面ヲ以テ英國ノ有様ヲ反問シタルニ議會閉会ニ差掛リ居ル今日復興会社ニ関スル法律ハ提出ノ見込ナシトノ答ヲ得タレバ仏国モ正ニ同様ナリト返事シ置ケリト語リ會議終了後一ヶ月トノ期間ハ嚴格ニ行ハレザル可シトテ深ク意ニモ介セサル風ニ見エ追テ具体案ヲ得バ通知ス可キヲ約セリ尚 Seydoux ノ言ニ依レバ西班牙瑞典ハ復興会社五十万磅子会社ハ其十倍各々政府保証ノ法律ヲ可決シタリト

在英大使へ転電セリ

一七五 七月二十九日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興会社へノ参加回答期限ト海牙會議閉

会日ニ関シ書記局ノ見解回報ノ件

第四四六号

(七月三十日接受)

貴電第二七九号ニ関シ大久保 Bender ニ問合セタル所ニ依レバ同人ハ莫ニ往電第四〇七号大久保宛書面ト同趣旨ノ通牒ヲ各国側ニ送リタルニ鑑ミ海牙會議終了後三十日以内ニ

二二五

一 歐洲復興及賠償問題ニ関スル諸會議開催ノ件 一七六

各国ヨリノ回答ニ接到ス可キヲ予期シ居レリ尤モ同人八月末(脱)ナリ尚今日迄ノ処西班牙ハ加入ノ旨確答シ丁抹(脱)瑞典ハ他国ニシテ加入セバ同国モ参加ス可シトノ意思ヲ表示シタル趣ナリ

貴電末尾ノ通郵送セリ

一七六 八月一日 在白国武者小路臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興会社ヘノ参加回答期限ト海牙會議閉
会日ニ関シ白国ノ意向回報ノ件

第九一号 (八月二日接受)

在英大使宛貴電第二七九号ニ關聯シ八月一日白国側代表Carter氏及外務省主任官ヨリ聴取リタル所ニ依レバ同氏モ最近「ビンデル」氏ヨリ回答ノ督促ヲ受ケタルニ付数日中ニ首相トモ協議スル管ナルガ私見トシテハ此際海牙會議失敗ノ結果通告期日等ハ問題トセズ何等白国側ノ態度ヲ表明スルコトヲ見合ハスコト然ルベシト愚考スル趣ナリ

英仏伊ヘ転電セリ

一七七 八月五日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一七七 一七八

白国ハ歐洲復興会社ニ参加決定ノ趣ニ付回報
ノ件

第五五六号 (八月八日接受)

貴電第四一〇号ニ關シ賠償委員會白国事務所ヲ通シ其本国政府ニ問合セタル処海牙會議ノ結果ニ鑑ミ目下復興会社ニ参加セザルコトト仮ニ決定シタリトノ回答アリ

在英大使在白大使ヘ転電セリ

一七八 九月十二日 在英國德川臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

歐洲復興会社設立ニ關スル問合ニ対シ回答ノ件

第五三二号 (九月十三日接受)

貴電第三〇五号ニ關シ
大久保「ロード、インヴァフォース」ニ問合セタル所ニ依
レバ

(一) 本件設立準備最近ノ模様ハ未ダ各国ヨリノ返事出揃ハ
ザルタメ格段ノ進捗ナク専ラ右回答ヲ待チツツアリ

(二) 法律案提出ノ件ハ各国ノ經濟狀態渾沌タル際今秋ノ議
会ニ提出ハ六ヶ數カルヘシ

(三) 政府保障ニ就キ「ゼノア」ニテハ元本ノミナラズ利子

大正十一年十月三日

横浜正金銀行

副頭取 一宮鈴太郎(印)

外務次官 埴原正直殿

復興会社本邦側委員更迭ノ件

在倫敦委員大久保利賢帰朝ニ付右本邦側委員ヲ後任弊行倫
敦支店支配人矢野勘治ヘ引継ガシメタキ旨在英德川代理大
使ヨリ稟申モ有之異存ノ有無可申出旨先月三十日附欧二普
通第一三三号御来示敬承仕候弊行更ニ異存無之其旨早速矢
野支配人ヘ電報ニテ指図致置候間左様御了承被下度御受旁
此段申進候也

(附記一)

大正十二年一月四日在英國德川臨時代理大使宛内田外務大臣宛
電報第九号

歐洲復興國際会社ニ關シ横浜正金倫敦支店發電ノ件

第九号 (一月五日接受)

國際会社ノ件ニ關シ一月四日当地正金ヨリ本店宛電報セリ
御聴取相成リタシ尤追テ電報スル迄外部ニ洩レザル様御注
意ヲ請フ

(附記二)

迄モ保障セラレタル様述ベタルガ「ゼノア」発閣下宛電
報第一四〇号並在電第三四七号参照)矢張元本ノ保障丈ケ
ニ止マルベシトノコトナリ

英仏伊ヘ郵送セリ

一七九 十月三日 一宮横浜正金銀行副頭取ヨリ
埴原外務次官宛

歐洲復興会社本邦側委員ニ矢野氏任命ノ件

附記一 大正十二年一月四日德川臨時代理大使宛内田

外務大臣宛電報第九号

國際会社ニ關シ横浜正金倫敦支店發電ノ件

二 同右年一月十日附西野大藏次官ヨリ田中外務
次官宛秘丙第六号

國際会社ニ關スル横浜正金倫敦支店來電亨送
付ノ件

三 同右年一月十二日德川臨時代理大使宛内田外
務大臣宛電報第一八号

國際会社組織委員會ヨリ同委員會解散ニ付申
越ノ件

四 同右年二月九日附林大使ヨリ内田外務大臣宛
公第三九号
國際会社解散及割戻金送付ノ件

書第二九号

一 歐洲復興及賠償問題ニ關スル諸會議開催ノ件 一七九

二二六

二二七

大正十二年一月十日附西野大蔵次官ヨリ田中外務次官宛秘丙第六号

歐洲復興國際会社ニ関スル横浜正金倫敦支店來電寫送付ノ件

秘丙第六号

大正十二年一月十日

大蔵次官 西野 元(印)

外務次官 田中都吉殿

歐洲經濟復興會社ニ関スル件

本件ニ関シ在倫敦横浜正金銀行取締役大久保利賢ヨリ森財務官宛別紙寫ノ通來電有之候条御參考ノ為及移牒候尚來電末段ノ次第有之候ニ付外部ニ御發表ノ儀御見合相成度為念申添候

(別紙)

大正十二年一月五日横浜正金倫敦支店發森財務官宛電報寫

歐洲復興國際会社設立中止ノ件

本電極秘

左ノ通森賢吾ヘ伝言セヨ

本日 Lord Inverforth ヲ告別ノ為メ訪問シタル処目下歐洲事情總テ設立ニ便ナラザルヲ以テ International Corporation 中止スルニトテ過般首相ニ建議 reluctantly ニ同意

ヲ得タル趣内話有之尚追テ正式通知スル迄日本ヘ打電方見合サレ度トノコトナリシモ参考迄ニ電報ス含ミ置カレ度

大久保利賢

(附記三)

大正十二年一月十二日在英國德川臨時代理大使發内田外務大臣宛電報第一八号

歐洲復興國際会社組織委員會書記局ヨリ同委員會解散ニ関シ申越シタル旨報告ノ件

第一八号

(一月十四日接受)

往電第九号ニ関シ

十一日本件組織委員會「セクレタリー」ヨリ矢野宛書面ヲ以テ該委員會英國代表者ヨリ各般ノ現狀ハ本件親会社及子会社設立進行ニ有利ナラズト認メラルルコト從テ各國委員ニ於テモ亦此際右委員會解散ニ異議ナカルベキコトヲ推定スル旨通告方依頼サレタル趣ヲ述ヘ各國ヨリノ払込額一万二千磅ヨリ今日迄ニ消費シタル額ヲ扣除シタル全殘高中我方取り分トシテ其ノ六分ノ一英貨(一、八一二磅一志六片)ヲ割戻シ來レリ該金額郵送ス委細郵報在米大使及在歐洲各大使(公使ヘ郵報セリ

(附記四)

大正十二年二月九日附在英國林大使ヨリ内田外務大臣宛公第三九号

歐洲復興會社解散及割戻金送附ノ件

公第三九号

(三月二十三日接受)

大正十二年二月九日

在英

特命全權大使男爵 林 權助(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

歐洲復興會社解散ノ件